

# 現代世界の課題の探索と協力の実践 ～途上国・被災地から感じる世界～



伊豆大島の被災地

担当教員  
国際社会科学研究院  
小林誉明



フィリピン（レイテ島）

世界は紛争、災害、格差など深刻な「課題」に満ちている。そこから遠く離れた場所において外部者として世界の課題を論じることは可能であるが、その渦中に身をおかなければ見えてこないことは多い。本実習は、解決すべき課題を抱えている（と思われる）地域に「押しかけ」、自らの目で現実を見て、感じた問題意識に基づいて「自分は何ができるのか」を模索し、関係者に働きかけながら「実践してみる」ことを目的とする。本年は、国内フィールドとしては台風土砂被害からの復興過程にある伊豆大島、海外フィールドとしてネパールかフィリピン、ミャンマーを想定。

## 【スケジュール】

4月 関心の共有と調査手法習得

5月～8月 国内フィールド実習（2ヶ月に1回程度）および定期勉強会（2週間に1回程度）

9月 海外フィールド実習（希望者のみ）

10月～1月 国内フィールド実習（2ヶ月に1回程度）および関連機関訪問（2週間に1回程度）

2月 活動成果報告会

## 【メッセージ】

「当事者」の1人として何ができるか、なにをやってはいけないのか、実現するにはどうしたらいいのか、どこに乗り越える壁があるのか、といったことを「現実」の問題として捉え、責任をもって取り組む経験が得られるであろう。代表者は、国際協力機構（JICA）において途上国への国際協力を実践してきた。国際協力に関心のある学生の積極的な参加を期待する。

## 【履修条件】

主体的に「何かやってみたい」という意欲のある学生であれば、学部・大学院の所属や専門分野、学年等は問わない。ただし週末や夏休みや春休みの期間の一部を割く必要はでてくる。

不明な点の質問や相談など、気楽に連絡ください！

[t-kobayashi@ynu.ac.jp](mailto:t-kobayashi@ynu.ac.jp)



聴き取り調査のイメージ